

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福知山ホテル	階数	地上7F
建設地	京都府福知山市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	108 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年12月 予定	評価の実施日	2010年1月15日
敷地面積	1,581 m ²	作成者	東園宏仁
建築面積	437 m ²	確認日	2010年1月18日
延床面積	2,599 m ²	確認者	樽貝直哉

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		
総合 福知山駅周辺の土地区画整理事業に伴い、福知山市の風土や、歴史にあったデザイン、機能を有したホテルとして計画する。また、ビジネスホテルであるため客室間の遮音性を重視し、間仕切壁やスラブ厚さ、サッシュ性能に配慮した計画とする。		その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 NC-30~35を目標値として外壁、床、間仕切壁を計画する。また、ロビー、客室供に大きな開口部を設け、明るい室内環境を確保できる計画とする。	Q2 サービス性能 インテリアに関しては、計画初期からパースなどにより検討し、木などの素材をポイントとして使用する計画としている。また、共用部に関しては、床、壁に磁器質タイルを使用する計画とし、維持、管理に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 外壁色や壁面位置、主要な設備機器設置位置への配慮や緑化計画の基準を満たす植栽を施すなど、周辺の町並みへ配慮した計画とする。
LR1 エネルギー 2~7階全てと1階の一部に全熱交換器を設置する。冷房能力の70%以上に対し、冷暖房平均COPが1.25以上の熱源機器を設置する。省エネ型蛍光灯を設置する。	LR2 資源・マテリアル 省水機器を採用し、節水を意識し、タイルを中心にエコマークを取得した内装材など、リサイクル材を使用する計画とする。	LR3 敷地外環境 福知山での主要交通手段が車であることを考慮し、広い駐車スペースの確保と、タクシーの路上駐車などで交通が妨げられないよう、車寄せを計画する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい